繭乃仲だより　003号　2024年4月20日発行

ボードゲーム

おうち時間を楽しむアイテムとしてすっかり定番となったボードゲーム。
年齢問わず遊べることに加え、知育教材としても評価が高く、図書館での取り扱いも増えてきています。
大宮図書館でも過去にボードゲームを遊ぶイベントが行われましたが、今年も6月に開催が決定！
今回の「まゆなか」では、ボードゲームの歴史を紐解きながら、実際に図書館員が遊んでみました。

↑中にはこんなに可愛い絵双六も！

日本においてもっとも古いボードゲームは双六（すごろく）とされ、さいころを振って出た目の数だけ升目にある駒を動かす遊び方は、現在の双六とほとんど変わりありません。『源氏物語』や『枕草子』に登場することから、平安時代にはすでに遊びとして普及していたと考えられています。

その頃は「盤双六」という二人で対戦するもので、囲碁盤に似た木製の盤と、白と黒の駒、振り筒、サイコロなどを用いる貴族の遊びでした。

けれど江戸時代へ入って庶民のあいだにも広まると、升目のような絵が描かれた紙を使用した「絵双六（紙双六）」が主流となり、人数も複数で遊ぶものとなりました。絵柄や種類も様々で、鮮やかな色で刷られたものは特に人気がありました。

起源は古く、古代エジプトの遺跡で発見された「セネト」というボードゲームだと言われています。そこから古代ローマ、エジプトやギリシャを経由し、ヨーロッパやアジアへと普及し、双六や西洋双六（バックギャモン）へと形を変えていきました。

名前の由来ですが、盤上の升目や印が一列に十二あるところから、二つの六……雙六（双六）となり、更に中国の「雙陸（すくろく）」が訛って「すごろく」となった、と言われています。

昭和の高度成長期に入り、テレビやマンガ雑誌が隆盛してくると、それに関連したボードゲームが次々と発売されるようになります。今や定番となった「人生ゲーム」や「オセロ」、「モノポリー」が登場したのもこの頃です。また、古代から中世においては賭博の意味合いも多く含まれていたボードゲームですが、そういった運によって左右する要素を減らし、遊び手の知識や経験を駆使して戦う頭脳ゲームも多くなっていきました。

そして今も、次々と新しいボードゲームが生まれ続けています。

裏面へ！

図書館員が遊んでみた

右側でお伝えした通り、一言でボードゲームといっても種類は様々。数分で終わる簡単なゲームから、中には1時間以上かかる大作も…！

「モノポリーと人生ゲーム以外知りません！」というスタッフも結構います。じゃあ実際に触れてみよう！ということで、さいたま市でボードゲームが遊べるカフェ「JELLY JELLY CAFE」へお邪魔してきました。

「JELLY JELLY CAFE」

世界中のボードゲームを自由に選んで遊べるカフェです。
ゲームのルールがわからなくても、店員の方が丁寧に説明してくれますので、興味はあるけど遊んだことないな、という初心者の方にもおすすめ。

「JELLY JELLY CAFE」の場合、

・営業時間　13時～23時
・1ドリンク付き5時間制（10時間遊べるパックもあります）

となっていますので、学生や社会人の方でもたっぷり楽しめます！

JELLY JELLY CAFE　大宮店

〒330-0802
さいたま市大宮区宮町4丁目4 花のシマムラビル 2階
048-788-4399

遊んでみたゲーム

←その他にも、面白そうなゲームをたくさん紹介していただきました！

ドメモ

見えている数字や対戦者の発言から、自分が持っている見えない数字を推理して当てるゲーム。１は１枚、２は２枚、と１～７まで数字と同じ数だけ存在します。
シンプルですが意外と記憶力が試されます。
「３は全部出てるから……４？」
「違いますねえ（にやにや）」
「あれ、さっき自分が言った数字を忘れちゃった…」
準備も片付けも簡単なので、大人から子どもまで手軽に遊べます。

2～5人用／時間：約10分／発売元：クロノス

ファウナ

カードに描かれた動物の絵と名前を見て、生息地、体長、体重、尻尾の長さを推測し、正解の点数を競うゲーム。動物の種類は３６０種類とかなり豊富です…！
今回出されたお題は【ヤマビーバー】でした。
「ビーバーなのにヤマって何！？」
「尻尾は体長に含まれますか？」
「絵だから大きさが全くわからない…」
知らない動物に困惑するスタッフたち。終わった後に図鑑を開いて調べてみるのも楽しそうです。

2～6人用／時間：約45～60分／発売元：ホビージャパン

店内に入ってまず目に飛び込んでくるのは、壁一面にずらりと並んだボードゲームです。その数なんと５００種類以上！ボドゲ好きスタッフのテンションは一気に上がり、他のスタッフからも「こんなにあるんだ！」と歓声が上がります。ちなみに、難しかったり時間がかかったりするものを重ゲー、その反対を軽ゲーと呼ぶんだとか。
今回はその中から**「図書館に置くならどんなボードゲームが向いていると思いますか？」**という質問に対して選んでもらったゲームを実際に遊んでみました。

ボードゲームの魅力とは？

「JELLY JELLY CAFE」大宮店店長　塚田　咲子さん

カフェで働く前は小学校の先生を務めていたという塚田さん。とても柔らかい雰囲気で、我々スタッフにもわかりやすくゲームの説明をしてくださいました。
積極的に学習塾や企業とのイベントを行い、ボードゲームの魅力を幅広い分野で広めています。

――友だちがすぐできるところ

プライベートな話はしなくても、ゲームを通じて仲良くなれた気がする。名前を覚えていなくても、この人とこのゲームで遊んだな、という思い出は残る。そうやって名前も年齢も関係なく、みんなで楽しめて、大人になっても友だちができるところが、ボードゲームの魅力のひとつだと思います。

――時間を忘れて楽しめる

お店で遊んでいて「5時間（※お店は1ドリンク付き5時間制）スマホ触ってなかった！」と驚く方もいます。デジタルから離れて遊びたい方にもおすすめです。みんなで顔を合わせて、お酒なしでも遊ぶ、というのはあまりないので、そういうことができるのが良さのひとつですね。

――年齢に関係なく、対等に遊べる

運やアクション要素が絡んでくると、子供も大人も関係なく一緒になって盛り上がれます。ルールも自分たちで工夫できるので、今回はこんな風にしよう、と変えながら遊べるところが、デジタルにはないアナログゲームならではの良さだと思います。８４歳になる祖母がいるんですけど、私と祖母、それから私と同じ歳のお客様と相席で遊んだこともあるんですよ。

――笑うことで健康にも！

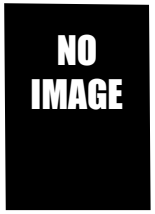
爆笑が生まれることもあるので、お客様の中には久しぶりにこんなに笑った、という方もいらっしゃいます。笑いが健康に繋がるとも言いますし、そういう点でも良いな、と。記憶力や反射神経を使うゲームもあるので脳トレや手指の運動にもなりますし、学校や図書館だけでなく、老人ホームでもできるんじゃないかなあ。

塚田さんのイチオシ本！

『きこえる』

物語の合間に挟まれたQRコードをスマホ等で読み取り、表示されたページから流れる“音”を聴いて謎を解いていく新感覚のミステリー小説。聴覚が加わることで、謎解きが一層面白くなるはず！

道尾秀介／著　講談社　2023年



『プロジェクト・ヘイル・メアリー(上・下)』

塚田さん曰く「最初はカバーも見ないで読んでほしい！」本。真っ白な部屋の中、記憶を失った状態で目を覚ました主人公。わずかに蘇る記憶と知識を駆使し、少しずつ真実を導き出していきます。

アンディー・ウィアー／著　早川書房　2021年
小野田和子／訳